

【感染症ニュース】新型コロナ全国定点 4.42 (2/24-3/2) 前週比約 11%減 医師「冬季流行は小規模なものに」

3/9 感染症予防接種ナビ

厚生労働省が、2025 年 3 月 7 日に発表した第 9 週 (2/24-3/2) の「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の発生状況について」によると、全国の定点当たり報告数は 4.42。前週の 4.95 から減少しました。

都道府県別にみると、佐賀県 (8.23)・茨城県 (6.22)・長野県 (6.59)・愛知県 (6.62)・島根県 (6.24) で定点 6 を超えています。現状について、感染症に詳しい医師に聞きました。

感染症・予防接種ナビに寄せられた経験談をご紹介します。

◆感染症に詳しい医師は…

感染症に詳しい大阪府済生会中津病院院長補佐感染管理室室長の安井良則医師は「2025 年の冬休み明け辺りから、患者発生数は横ばいからやや減少傾向状態となっている印象です。

過去 4 年間は、1 月から 2 月にかけて、患者報告数は増加が見られてきたが、2025 年はこれまでのところ患者報告数の大きな増加はみられていません。冬の流行は、昨年・一昨年と比べ、小規模なものになったと考えられます。私の勤務先のある大阪府のデータでも、新型コロナウイルス感染症の患者発生数も、2 月以降はやや減少傾向の状態が続いています。全国的な流行も、いったん落ち着いたと考えてよいでしょう」としています。

◆新型コロナウイルス感染症とは？

新型コロナウイルスは感染者の口や鼻から・くしゃみ・会話のときに排出されるウイルスを含む飛沫、またはエアロゾルと呼ばれるさらに小さな水分を含んだ状態の粒子を吸入するか、感染者の目や鼻、口に直接に接触することにより感染します。一般的には 1 メートル以内に近接した環境において感染しますが、エアロゾルは 1 メートルを超えて空気中にとどまりうることから、長時間滞在しがちな、換気が不十分で混雑した室内では、感染が拡大するリスクがあることが知られています。感染すると 2～7 日の潜伏期間のあと、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、咳といった上気道症状に加え、倦怠感・発熱・筋肉痛・頭痛といった全身症状が生じることが多く、その症状はインフルエンザとよく似ています。オミクロン株が主流となった現在は、嗅覚・味覚障害の症状は減少しています。軽症の場合は 1 週間以内に症状が軽快することが多い一方、発症から 3 か月を経過した時点で何らかの症状が 2 か月以上持続し、他の疾患による症状として説明がつかない場合には、罹患後症状（後遺症）の可能性を考える必要があります」としています。

◆冬場は部屋の換気を忘れずに！

新型コロナウイルス感染症とともに、インフルエンザも流行拡大の兆しがあります。予防の一つとして、部屋の換気があります。寒くなりましたが、定期的に部屋の空気を入れ替えるよう心がけましょう。

引用

厚生労働省：新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の発生状況について 2025 年第 9 週

取材

大阪府済生会中津病院院長補佐感染管理室室長 安井良則氏